

大日向村の46年

満州移民・その後の人々

第一分村移民の軌跡

第二部 語る

過去と現在をつなぐもの



長野県南佐久郡の山間にある佐久町大日向（現・佐久穂町）はかつては「大日向村」と呼ばれ、昭和十三年全国ではじめて村の半分という大規模な開拓団を旧満州へと送り出しました。

当時その出来事は模範的な農村の姿として称賛され、和田傳氏により小説「大日向村」が書かれ、前進座により劇となり、豊田四郎監督のもと映画「大日向村」が製作されました。

こうしてそれまでは何げない一山村であった「大日向村」の名は一躍日本国中に宣伝され、以後全国から多くの満州開拓団を送り出す役割を果たしていったのです。

満州大日向村は開拓のモデルケースとされるために旧満州でも格好の土地を与えられたと言われています。しかしそれから僅か八年足らずで大日向村の「王道楽土」の夢は崩れ去りました。敗戦により満州大日向村を脱出した人々は長春（旧新京）での一年近い難

民生活の間に団員（六七四名）の半数以上を亡くし、昭和二十一年九月、ようやくの思いで母村大日向村に引き揚げてきましたが、移民した際に財産は一切処分していたためにそこに長く留まることが出来ず、昭和二十二年二月、六十五戸一六五名の人々は再び故郷を離れ、浅間山麓の開拓に入り、もう一つの大日向―軽井沢町大日向をつくりました。

こうして現在、長野県車で僅か一時間ばかりのところの二つの大日向があるのです。

昭和五十九年夏、私たちはこれまで“幻の映画”と呼ばれていた劇映画「大日向村」が発見されたことをきっかけに二つの大日向村を訪れました。昭和十三年の満州への出発から実に四十六年の歳月が流れていました。



構成／若月健一・小泉修吉・山本常夫 演出／山本常夫 撮影／山口誠・沢幡正節
撮影助手／田村圭三 VE／隅田一明 ナレーション／村松康雄 プロデューサー／小泉修吉
協力／佐久町大日向の皆さん 軽井沢町大日向の皆さん 佐久町教育委員会 東宝株式会社
制作協力／映画「大日向村」を観る会 佐久総合病院映画部
1986年／デジタル／カラー／155分 配給：グループ現代